

ESET Server Security for Linux V10

機能紹介資料

第4版

2024年3月15日

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

はじめに(本資料について)

本資料はLinuxサーバーOS向けプログラム「ESET Server Security for Linux V10」の機能を紹介した資料です。

プログラム名	種別
ESET Server Security for Linux V10(略称表記：ESSL)	Linux サーバー用 ウイルス・スパイウェア対策プログラム

- ESET File Security for Linuxから名称が変更になりました。
- 本資料で使用している画面イメージはESET Server Security for Linux V10.2で取得しております。使用するOSやバージョンにより異なる場合があります。また、今後画面イメージや文言が変更される可能性があります。
- 上記プログラムはクラウド型セキュリティ管理ツールであるESET PROTECT(略称表記：EP)、オンプレミス型セキュリティ管理ツールであるESET PROTECT on-prem (略称表記：EP on-prem) V9.0 以降※で管理が可能です。
※OSにより管理できるEPのバージョンに差異がございますので詳細はサポートサイトをご確認ください
 - セキュリティ管理ツールで管理可能なクライアント用プログラムは？
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/143?site_domain=business
- 「ESET PROTECTソリューション」ではWindows、Mac、Android OS向けのプログラムもご使用いただけます。
また、LinuxクライアントOS向けのプログラムもご使用いただけます。
「ESET Server Security for Linux / Windows Server」では、Server OS向けのプログラムもご使用いただけます。
各プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。

目次

1. サポート環境
2. Webインターフェースについて
3. 詳細設定について
4. ESSLの仕様について

サポート環境

1. サポート環境

項目	条件	備考
OS	Red Hat Enterprise Linux 7.X (64bit) ※1 Red Hat Enterprise Linux 8.X (64bit) ※1 Red Hat Enterprise Linux 9.X (64bit) ※1 SUSE Linux Enterprise 15 (64bit) ※2 CentOS 7.X (64bit) Amazon Linux 2 Alma Linux 8 ※3 Alma Linux 9 Rocky Linux 8 Rocky Linux 9	※1 Red Hat Enterprise Linux (以降、RHEL) ※2 SUSE Linux Enterprise (以降、SUSE) ※3 ただし、セキュリティ管理ツールでの管理は未サポート
CPU	Intel,AMD(64bit)	
メモリ	2GB	
ハードディスク	700MB以上	
必要ソフトウェア	・ kernel 3.10.0以降 ・ elfutils-libelf-devel (RHEL8/9, Amazon Linux2,AlmaLinux,Rocky Linuxに必要) ・ libselinux ※最新パッケージをご利用ください (RHEL, CentOS, Amazon Linux2,AlmaLinux,Rocky Linuxに必要) ・ glibc 2.17 以降のバージョンが導入されていること	
SecureBootへの対応	対応可能 ※4	※4 Amazon Linux 2は非対応
その他	en_US.UTF-8エンコーディングを使用する任意のロケール	

システム要件の詳細は下記ESETオンラインヘルプをご確認ください。

https://help.eset.com/essl/10.2/ja-JP/?system_requirements.html

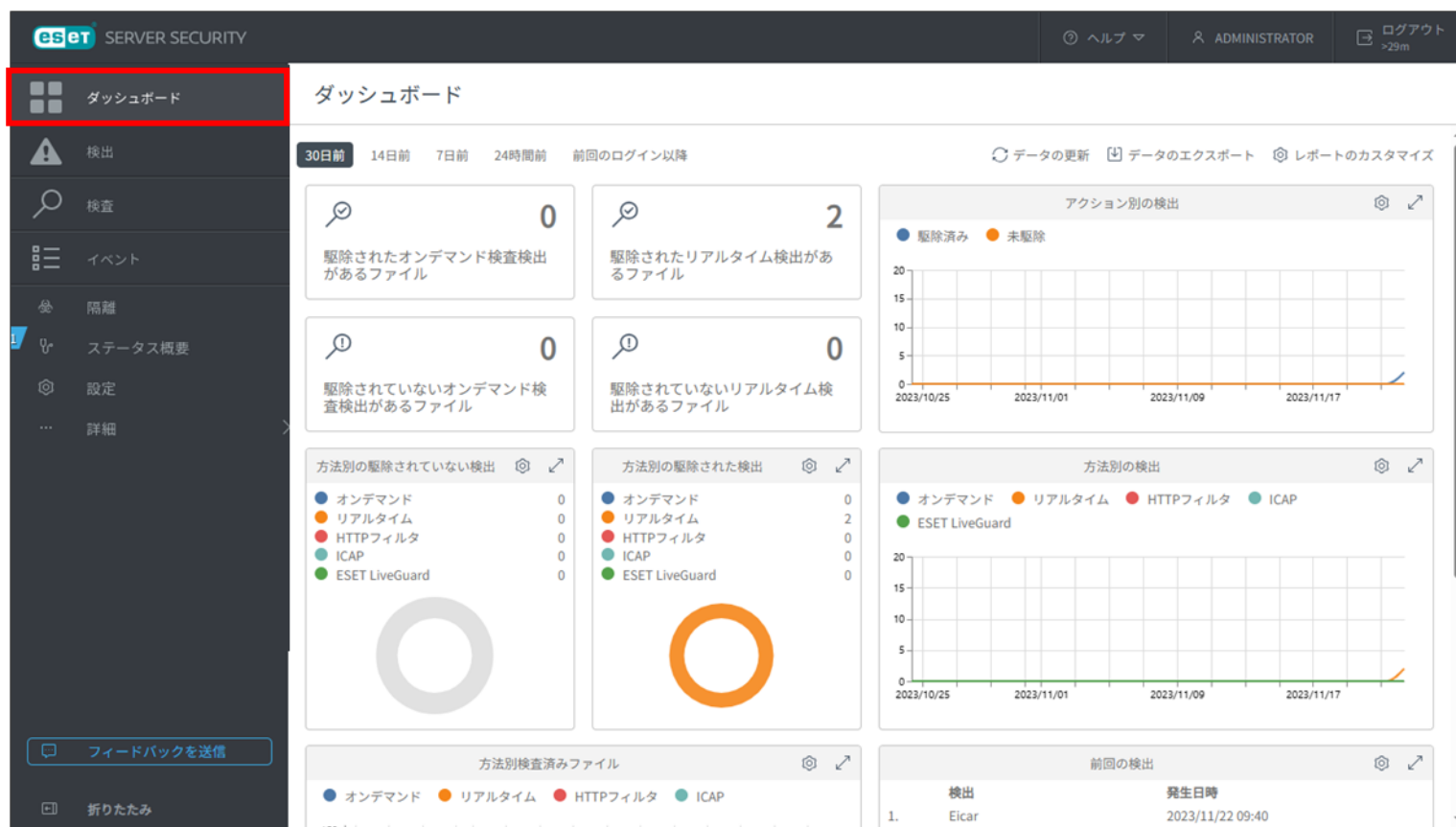
Webインターフェースについて

2. Webインターフェースについて

(1)ダッシュボード

- ダッシュボードから保護状況や検出状況の確認が可能です。

■ダッシュボード画面



2. Webインターフェースについて

(2)検出

- 検出されたすべての脅威とそれらに対して実行されたアクションは、検出画面に記録されます。脅威が検出され駆除されていない場合は行全体が赤色でハイライトされます。検出された悪意があるファイルの駆除を試行するには、特定の行をクリックし、「再検査して駆除する」を選択します。

■ 検出結果画面

2. Webインターフェースについて

(3)検査

- 手動でのオンデマンド検査が可能です。「すべてのローカルドライブを検査」と「カスタム検査」が選択可能で、「カスタム検査」では、事前に作成したプロファイルに基づいた検査や検査対象を指定した検査が可能です。また、検査結果をクリックすることで詳細情報が確認可能です。

■ 検査画面

eset SERVER SECURITY

ダッシュボード

検出

検査

イベント

隔離

ステータス概要

設定

詳細

フィードバックを送信

折りたたみ

新しい検査

すべてのローカルドライブを検査

カスタム検査...

開始時刻	進行状況	検査済み	削除済み	検出されました	時間	トリガー
完了						
2023/11/22 09:53	完了	45,971	1	1	14 秒	root
2023/11/22 09:48	完了	4	0	0	0 秒	root
2023/11/22 09:46	完了	47,493	0	0	21 秒	root

スケジューラー設定に基づいて古いデータが削除された可能性があります。

■ 検査の詳細画面①

検査の詳細

概要

検出

検査済みファイルではありません

基本情報

開始時刻: 2023/08/03 14:49

完了時刻: 2023/08/03 14:49

時間: 20 秒

検査設定

検査対象: 2

オブジェクト

検出されました: 1

削除済み: 1

未検出: 0

検査済み: 48,786

■ 検査の詳細画面②

検査の詳細

概要

検出

検査済みファイルではありません

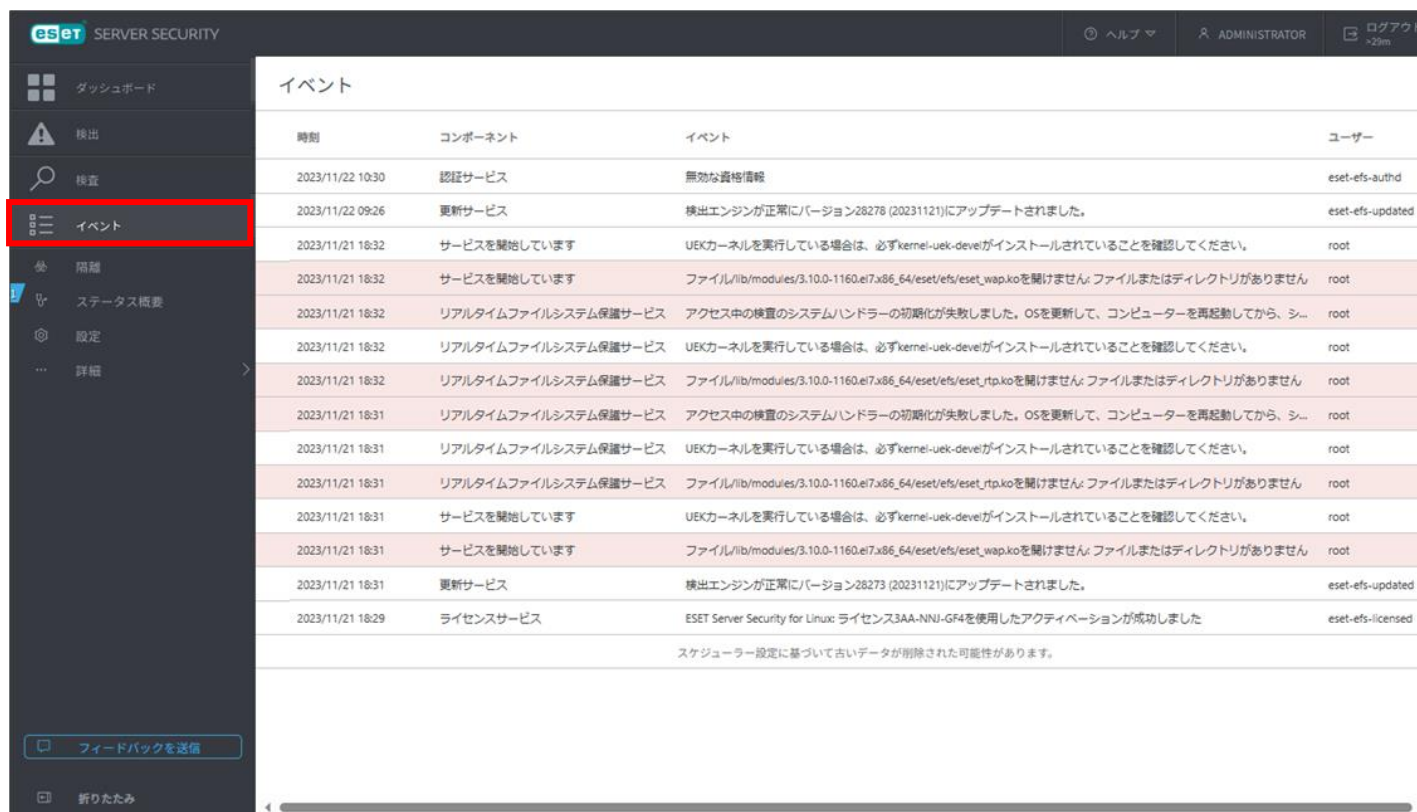
検出された時刻	重大度	オブジェクトURI	検出	検出タイプ	アクション	ハッシュ
2023/08/03 14:49	1	file:///root/.icar.com	Eicar	テストファイル	削除によって削除されました	3395856CE81F287382DEE72602F798B6...

2. Webインターフェースについて

(4) イベント

- ESSL V10.XのWebインターフェースで実行される重要なアクション、Webインターフェースへのログインの失敗、ターミナルから実行されるESSL V10.X関連のコマンド、および一部のその他の情報はイベント画面に出力されます。

■ イベント画面



時刻	コンポーネント	イベント	ユーザー
2023/11/22 10:30	認証サービス	無効な資格情報	eset-efs-authd
2023/11/22 09:26	更新サービス	検出エンジンが正常にバージョン28278 (20231121)にアップデートされました。	eset-efs-updated
2023/11/21 18:32	サービスを開始しています	UEKカーネルを実行している場合は、必ずkernel-uek-develがインストールされていることを確認してください。	root
2023/11/21 18:32	サービスを開始しています	ファイル/lib/modules/3.10.0-1160.el7.x86_64/efst/efst_wap.koを開けません。ファイルまたはディレクトリがありません	root
2023/11/21 18:32	リアルタイムファイルシステム保護サービス	アクセス中の検査のシステムハンドラーの初期化が失敗しました。OSを更新して、コンピューターを再起動してから、シ...	root
2023/11/21 18:32	リアルタイムファイルシステム保護サービス	UEKカーネルを実行している場合は、必ずkernel-uek-develがインストールされていることを確認してください。	root
2023/11/21 18:32	リアルタイムファイルシステム保護サービス	ファイル/lib/modules/3.10.0-1160.el7.x86_64/efst/efst_rtp.koを開けません。ファイルまたはディレクトリがありません	root
2023/11/21 18:31	リアルタイムファイルシステム保護サービス	アクセス中の検査のシステムハンドラーの初期化が失敗しました。OSを更新して、コンピューターを再起動してから、シ...	root
2023/11/21 18:31	リアルタイムファイルシステム保護サービス	UEKカーネルを実行している場合は、必ずkernel-uek-develがインストールされていることを確認してください。	root
2023/11/21 18:31	リアルタイムファイルシステム保護サービス	ファイル/lib/modules/3.10.0-1160.el7.x86_64/efst/efst_rtp.koを開けません。ファイルまたはディレクトリがありません	root
2023/11/21 18:31	サービスを開始しています	UEKカーネルを実行している場合は、必ずkernel-uek-develがインストールされていることを確認してください。	root
2023/11/21 18:31	サービスを開始しています	ファイル/lib/modules/3.10.0-1160.el7.x86_64/efst/efst_wap.koを開けません。ファイルまたはディレクトリがありません	root
2023/11/21 18:31	更新サービス	検出エンジンが正常にバージョン28273 (20231121)にアップデートされました。	eset-efs-updated
2023/11/21 18:29	ライセンスサービス	ESET Server Security for Linux: ライセンス3AA-NNJ-GF4を使用したアクティベーションが成功しました	eset-efs-licensed
スケジューラー設定に基づいて古いデータが削除された可能性があります。			

2. Webインターフェースについて

(5) 隔離

- ESSL V10.Xによって隔離されたファイルを表示します。隔離された時間やファイルのパス、理由などの確認ができます。隔離されたファイルをクリックすることで、以下のアクションが可能です。

■ 隔離画面

時刻	検出	検出タイプ	原因	サイズ	数	ハッシュ	除外可能
2023/11/22 09:53	Eicar	テストファイル		68 B	3	3395856CE81F2B7382DEE7...	いいえ

【復元 と 除外】:隔離された検体を復元し、再度検出されないように除外します
【復元】:隔離された項目を元の場所に復元します(再度誤検知されないように「検出除外」の設定が必要です)
【パスのコピー】:検体が検出されたパスをコピーします
【ハッシュのコピー】:ファイルのSHA-1ハッシュをクリップボードにコピーします
【ダウンロード】:隔離された検体をブラウザからダウンロードします
【隔離から削除】:隔離された検体を削除します
【分析のために提出】:隔離された検体のコピーをESETに送信します。こちらの検体は分析のために活用いたします。
※「分析のために提出」は、「ESET LiveGrid®フィードバックシステム」が有効になっている場合のみ表示されます。参照：本資料P18

2. Webインターフェースについて

(6)ステータス概要

- 保護状況やアップデート状況の確認が可能です。また、検出エンジンの手動アップデートやロールバック、アクティベーションなどを行うことが可能です。

■ステータス概要画面



The screenshot displays the 'ステータス概要' (Status Overview) page of the ESET Server Security web interface. The left sidebar contains navigation options: ダッシュボード, 検出, 検査, イベント, 隔離, **ステータス概要** (highlighted), 設定, and 詳細. The main content area shows several status cards:

- モジュールのアップデート**: すべてのモジュールは最新です (All modules are up to date).
- 製品アップデート**: 製品は最新の状態です (Product is up to date).
- ライセンス**: ライセンスは有効です (License is valid).
- リアルタイム検査**:
 - 現在の状況: 実行中 (Current status: In progress)
 - 検査サービス: 実行中 (Check service: In progress) - highlighted with a red box and a callout.
- オンデマンド検査**:
 - 検査サービス: 実行中 (Check service: In progress) - highlighted with a red box and a callout.
- その他の機能** (Other features):
 - ESET LiveGrid®レピュテーションシステム: 有効
 - ESET LiveGrid®フィードバックシステム: 有効
 - 望ましくない可能性があるアプリケーションの検出: 無効
 - リモート検査 - ICAP: 無効
 - ESET LiveGuard: 有効
 - ウォッチドッグ: 有効
 - Webアクセス保護: 有効

Callouts provide additional context:

- ウォッチドッグ機能により、ステータスを確認できます。 (By the watchdog function, you can check the status.)
- ウォッチドッグ機能により、ステータスを確認できます。 (By the watchdog function, you can check the status.)

2. Webインターフェースについて

(7)ブロックされたファイル

- ESET Inspectと連携され、ESET Inspectからブロックされたファイルを確認できます。

■ブロックされたファイル画面

eset SERVER SECURITY

ヘルプ マ ADMINISTRATOR ログアウト >29m

詳細ログ
送信されたファイル
ブロックされたファイル
フィルタリングされたWebサイト
ネットワーク保護

ブロックされたファイル

時刻	ファイル	ソース	原因	アクション	アプリケーション	ユーザー	ハッシュ	最初の表示時刻
<p>i</p> <p>ブロックされたファイルなし</p> <p>は、ブロックされたファイルのリストが表示されます。ファイルが</p>								

ESET Inspect連携され、ESET Inspectからブロックされたファイルがこちらに記録されます。

CLOSE

2. Webインターフェースについて

(8)フィルタリングされたWebサイト

- フィルタリングされたWebサイトを確認できます。

■ フィルタリングされたWebサイト画面

eset SERVER SECURITY

ヘルプ ADMINISTRATOR ログアウト >29m

詳細ログ
送信されたファイル
ブロックされたファイル
フィルタリングされたWebサイト
ネットワーク保護

フィルタリングされたWebサイト

時刻	オブジェクトURI	原因	アプリケーション	ユーザー	IPアドレス	アクション	重大度
----	-----------	----	----------	------	--------	-------	-----

i
フィルタリングされたWebサイトはありません

ここには、Webアクセス保護によってフィルタリングされたWebサイトのリストが表示されます。Webサイトがフィルタリングされていないか、ログファイルの設定に基づいてデータが削除されたため、現在データが表示されません。

フィルタリングされたWebサイトがこちらに記録されます。

CLOSE アクション ▾

2. Webインターフェースについて

(9) ネットワーク保護

- ボットネット保護に関するログが表示され、確認できます。

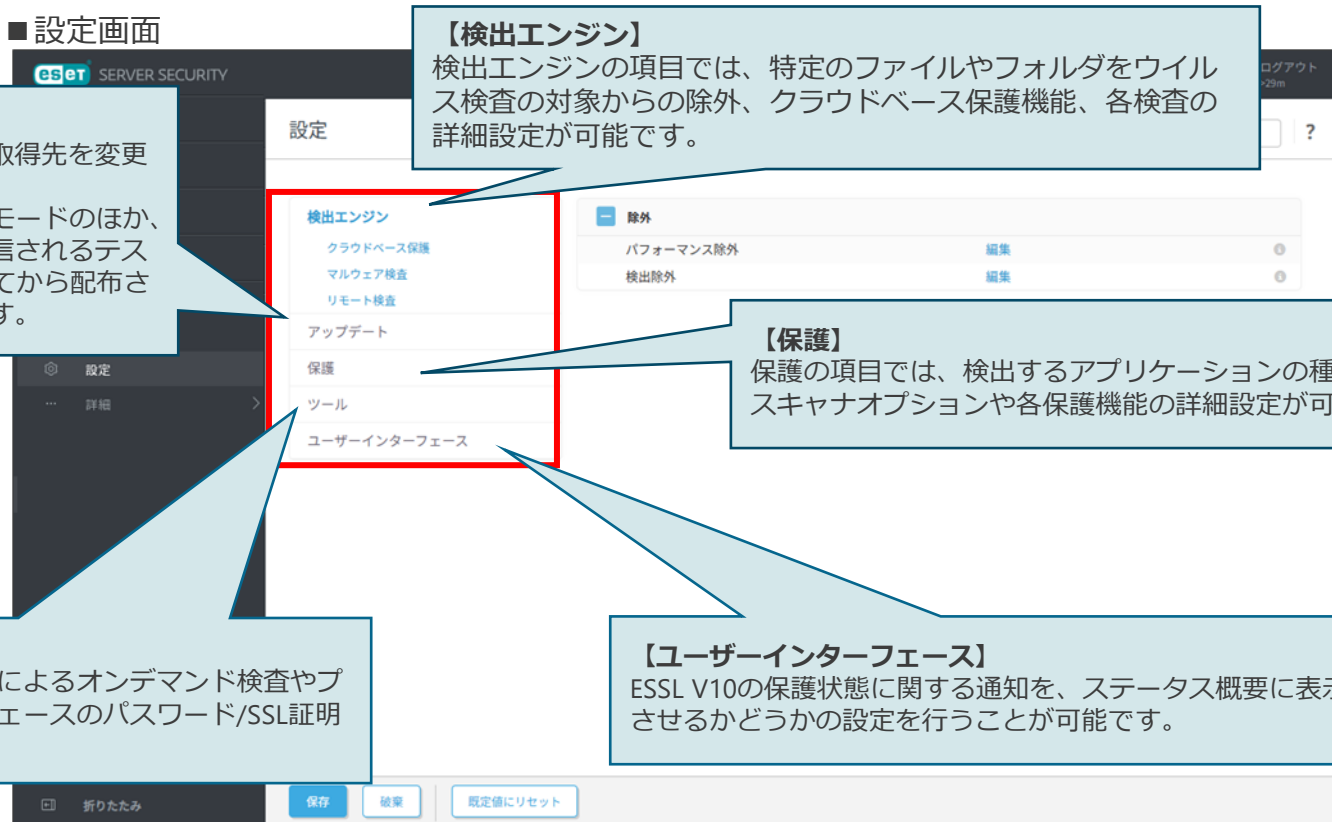
■ ネットワーク保護画面



2. Webインターフェースについて

(10)設定

- 検出エンジン、アップデート、保護、ツール、ユーザーインターフェースについて設定の確認や変更を行うことが可能です。また、業務を行ううえで一時的にESETの保護機能を変更させたい場合は、Webインターフェースから設定を一時的に有効や無効にすることが可能です。



■ 設定画面

【アップデート】
アップデートの項目では、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。アップデートモードは通常のアップデートモードのほか、通常の検出エンジンの配信より少し早く配信されるテストモードや、逆に通常配信後12時間経過してから配布される遅延アップデートを選ぶことが可能です。

【検出エンジン】
検出エンジンの項目では、特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象からの除外、クラウドベース保護機能、各検査の詳細設定が可能です。

【保護】
保護の項目では、検出するアプリケーションの種類を定義するスキャナオプションや各保護機能の詳細設定が可能です。

【ツール】
ツールの項目では、スケジューラ機能によるオンデマンド検査やプロキシサーバの設定、Webインターフェースのパスワード/SSL証明書の変更が可能です。

【ユーザーインターフェース】
ESSL V10の保護状態に関する通知を、ステータス概要に表示させるかどうかの設定を行うことが可能です。

2. Webインターフェースについて

(11)GUIパスワード変更

- ESSL V10.Xのインストール直後に自動生成されたWebインターフェースのログインパスワードは、任意のパスワードに変更することができます。

■GUIパスワード変更画面

The screenshot displays the ESET Server Security Web Interface. On the left is a dark sidebar with navigation icons and labels: ダッシュボード, 検出, 検査, イベント, 隔離, ステータス概要, 設定, and 詳細. The main content area is titled 'プロフィール' and 'セキュリティ設定'. Under 'セキュリティ設定', there is a 'パスワード' section with a 'パスワード変更' button. A callout box points to this button with the text: 「パスワード変更」をクリックし、新しいパスワードを入力して「保存」ボタンをクリックします。 Another callout box points to the top right of the interface, where the user is logged in as 'ADMINISTRATOR', with the text: クリックするとプロフィール画面が表示されます。 A modal window titled 'パスワード変更' is open, containing three input fields: 'パスワード', '新しいパスワード', and 'パスワードの確認'. These fields are highlighted with a red border. Below the fields, a list of password requirements is shown: 最小文字数: 10, 小文字1文字, 大文字1文字, 1つの数字, and 1文字の特殊文字. At the bottom of the modal, there are '保存' and 'キャンセル' buttons, with '保存' highlighted by a red box.

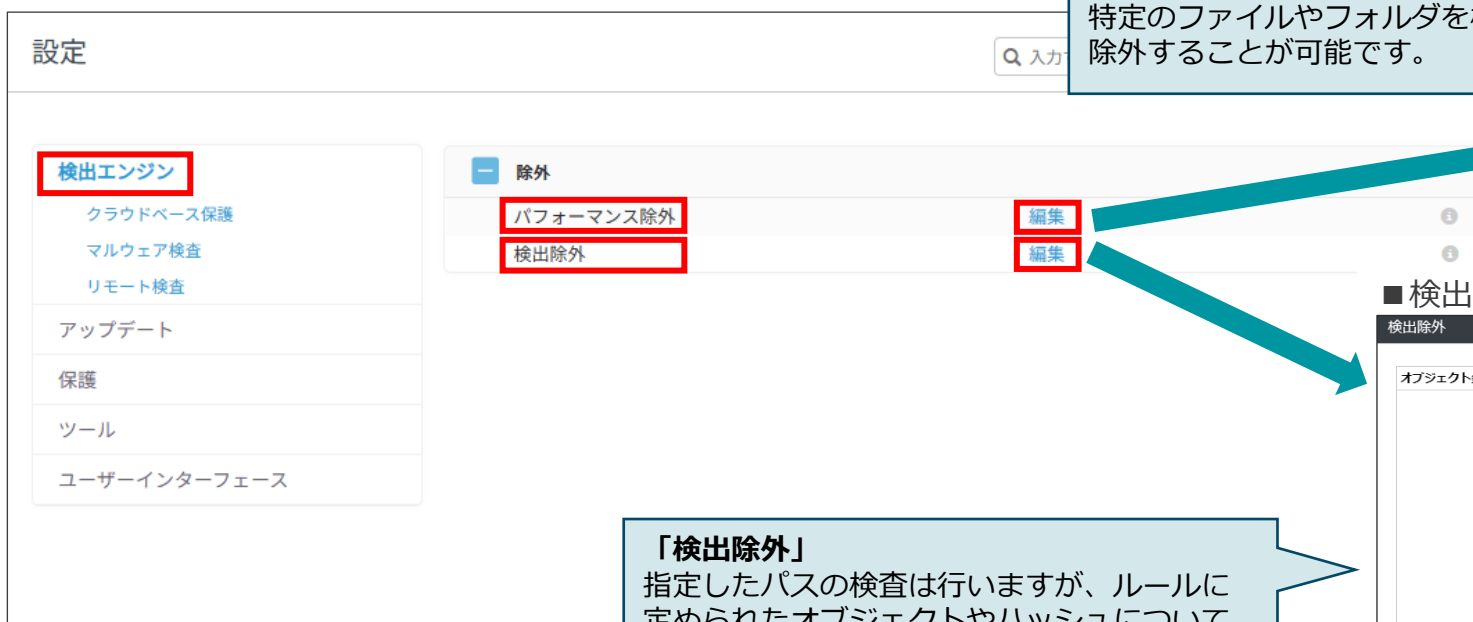
詳細設定について

3. 詳細設定について

(1) 検出エンジン — 除外

- 除外の設定を行うことで、特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象から外すことが可能です。パス、ハッシュ値、検出名で除外設定を行えます。独自開発したアプリケーションやデータベースなどを除外の対象とすることで、誤検知やデータベースなどを検査した際のCPU使用率の上昇を防ぐことが可能です。

■ 検出エンジン設定画面



■ パフォーマンス除外設定画面



■ 検出除外設定画面



3. 詳細設定について

(2)クラウドベース保護

- ESET LiveGrid®に参加すると、クラウドシステムにより実行中のプロセスの全世界における使用状況が共有されます。これにより実行中のプロセスのリスクレベルを確認できます。ESET LiveGrid®に不審なファイルを送付すると、送付されたファイルはESET LiveGrid®により解析されます。これは新たな脅威からESETユーザーを守ることにつながります。

■クラウドベース保護設定画面

【ESET LiveGrid®レピュテーションシステムに参加する】

実行中のプロセスの全世界における使用状況を確認するにはチェックを付けてください。ESET LiveGrid®から受け取ったホワイトリストを使用してスキャンパフォーマンスを改善できます。

【ESET LiveGrid®フィードバックシステムを有効にする】
データは詳細分析のためにESET研究所に送信されます。

「ESET LiveGuard を有効にする」
※ESET LiveGuard Advancedのアクティベーションが行われている場合のみこちらの項目が表示されます。

「サンプルの送信」
ESET LiveGridに送信するサンプルファイルの種類を設定することが可能です。

3. 詳細設定について

(3)マルウェア検査

- マルウェア検査では、オンデマンド検査の詳細設定を行うことが可能です。検査の対象やウイルス発見時のアクションを設定できます。オンデマンド検査に使用するプロファイルの作成や、システム起動時に実施されるスタートアップ検査の設定が可能です。

■ マルウェア検査設定画面

設定

検出エンジン

- クラウドベース保護
- マルウェア検査**
- リモート検査

アップデート

保護

ツール

ユーザーインターフェース

オンデマンド検査

選択されたプロファイル [詳細検査]

プロファイルのリスト [編集]

詳細検査

オンデマンド保護および機械学習保護

THREATSENSEパラメータ

検査するオブジェクト

- ブートセクタ/UEFI** [i]
- 電子メールファイル [i]
- アーカイブ [i]
- 自己解凍アーカイブ [i]
- ランタイムパッカー [i]

検査オプション

- ヒューリスティック [i]
- アドバンスドヒューリスティック/DNA署名 [i]

駆除

駆除レベル [厳密な駆除]

このモードでは、システムファイルを除く感染したファイルが自動的に駆除または削除されようとしています。

【選択されたプロファイル】
編集するオンデマンド検査用のプロファイルを選択します。
【プロファイルのリスト】
「編集」ボタンから、新たにオンデマンド検査用のプロファイルを作成することができます。

【ブートセクタ/UEFI】
UEFIスキャナーは、HIPSの一部であり、コンピューターのUEFIを保護します。UEFIはブートプロセスの最初にメモリに読み込まれるファームウェアです。UEFIスキャナーにより、UEFIに感染しシステムを制御するマルウェアの検出が可能です。

3. 詳細設定について

(4)アップデート

- アップデートでは、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。アップデート先としてプライマリサーバー、セカンダリサーバーを設定することによってアップデート先の冗長化が可能です。

■ アップデート詳細設定画面

【モジュールロールバック】
検出エンジンのアップデートにより問題が起きた場合にロールバックすることができます。既定では、1つ分のスナップショットを保存します。

【製品アップデート】
自動アップデート機能を使用して、自動で最新バージョンへバージョンアップすることができます。
※ バージョンアップ先のプログラムによっては、手動でのバージョンアップが必要な場合があります。

■ プライマリサーバー設定画面

任意のアップデートサーバーを設定可能です。
・自動選択 : オフ
(オンの場合はESET社のサーバーからアップデートを行います)
・アップデートサーバー : (例)http://192.168.1.1:2221

3. 詳細設定について

(5)保護

- 保護の項目では、コンピューターのパフォーマンスを低下させる恐れのあるアプリケーションや不正利用される可能性のあるアプリケーションを検出させるかどうかを設定することなどが可能です。

■ 検出エンジン設定画面

The screenshot shows the 'Detection Engine' settings window. On the left, a sidebar contains 'Detection Engine', 'Updates', 'Protection' (highlighted with a red box), 'Real-time file system protection', 'Web access protection', 'Network access protection', 'Tools', and 'User interface'. The main area is titled 'Detection response' and lists three categories, each with 'Report' and 'Protection' options:

- 望ましくない可能性があるアプリケーション** (Applications with a possibility of being undesirable): Explained by a callout as applications that may negatively impact performance when installing software or toolbars.
- 疑わしい可能性があるアプリケーション** (Applications with a suspicious possibility): Explained by a callout as applications that may contain compressed formats like zip or be obfuscated by protectors to evade detection.
- 安全ではない可能性があるアプリケーション** (Applications with a possibility of being unsafe): Explained by a callout as applications that may be misused, such as remote access tools or password cracking tools.

3. 詳細設定について

(6)リアルタイムファイルシステム保護

- リアルタイムファイルシステム保護を使用すると、ファイルのオープン時や作成時、また実行時に検査を行うことが可能です。リアルタイムファイルシステム保護はシステム起動時に開始され、中断することなく常に端末を保護します。

■ リアルタイムファイルシステム保護設定画面

設定

検出エンジン
アップデート
保護
リアルタイムファイルシステム保護
Webアクセス保護
ネットワークアクセス保護
ツール
ユーザーインターフェース

リアルタイムファイルシステム保護
リアルタイムファイルシステム保護を有効にする

検査するメディア
ローカルドライブ
リムーバブルメディア
ネットワークドライブ

検査のタイミング
ファイルのオープン
ファイルの作成
リムーバブルメディアのアクセス

プロセスの除外
検査対象外とするプロセス

THREATSENSEパラメータ

【ローカルドライブ】 : システムハードディスクをすべて検査
【リムーバブルメディア】 : CD/DVD、USBなどを検査
【ネットワークドライブ】 : マッピングされたドライブをすべて検査

【ファイルのオープン】
開いたファイルの検査を有効または無効にします。
【ファイルの作成】
作成するファイルの検査を有効または無効にします。
【リムーバブルメディアのアクセス】
コンピューターに接続するときにリムーバブルメディアの自動検査を有効または無効にします。

※以下のKernelのバージョンが揃っていない場合、リアルタイムファイルシステム保護は有効にできません。

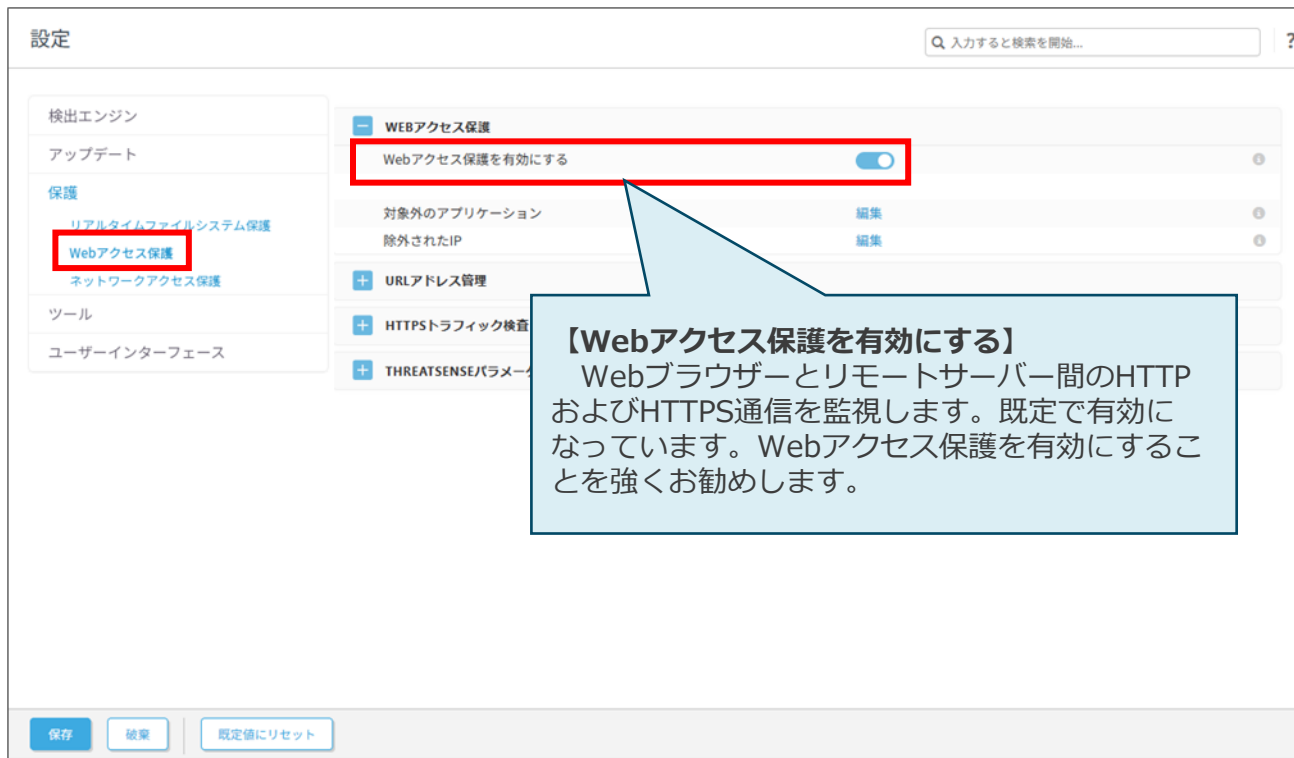
■ RHEL / CentOS / Amazon Linux2の場合 : kernel, kernel-devel, kernel-headers ■ SUSEの場合 : kernel-default, kernel-default-devel, kernel-devel, kernel-macros

3. 詳細設定について

(7)Webアクセス保護

- コンテンツをダウンロードする前に、悪意のあるコンテンツが含まれていることがわかっているWebページへのアクセスをブロックします。その他のすべてのWebページは、読み込み時にThreatSenseスキャンによって検査され、悪意のあるコンテンツの検出時にブロックされます。**※ESSL V10.1以降で利用できる機能です**

■ Webアクセス保護設定画面



※注意事項

本機能は、iptablesをサポートしておらずiptablesを利用している環境でWebアクセス保護が有効の場合、導入環境内のDockerや内部システムなどの通信を切断してしまう可能性がございます。
 iptablesを利用しているOSでは本機能を無効に設定ください。

3. 詳細設定について

(8) ネットワークアクセス保護

- 通信を解析し、リモートからのアクセスを検知して、迅速にボットを検出します。不正サーバーへの送信となる不審な通信やアドレスを検知して遮断することで、標的型攻撃を防ぎます。この機能を利用するにはWebアクセス保護を有効にする必要があります。※ESSL V10.2以降で利用できる機能です

■ ネットワークアクセス保護設定画面



3. 詳細設定について

(9) ツール

- スケジューラ機能により、定期的なオンデマンド検査が可能です。オンデマンド検査に用いる検査プロファイルは、事前に作成した任意のプロファイルを使用することが可能です。また、検査の対象やウイルス検知時のアクションなども設定可能です。

■ ツール設定画面

設定

検出エンジン
アップデート
保護
ツール
プロキシサーバ
Webインターフェイス
ログファイル
ユーザーインターフェイス

スケジュール
タスク 編集
+ ウォッチドッグサービス

■ タスク追加画面

タスク

有効	名前	トリガー	タスク
----	----	------	-----

追加 編集 削除

保存 破棄 既定値にリセット

■ オンデマンド検査スケジューラ設定画面①

オンデマンド検査スケジューラ

名前

日時

次の間隔で繰り返し

☐ 月曜日
☐ 火曜日
☐ 水曜日
☐ 木曜日
☐ 金曜日
☒ 土曜日
☐ 日曜日

コンピューターがオフの場合、コンピューターがオンになる次のスケジュールされた時刻にタスクが実行されます。

次へ キャンセル

任意のタスク名と時刻を設定し、オンデマンド検査が自動的にトリガーされる曜日を選択します。

・ 任意の検査プロファイル
・ 検査の対象、
・ オプション(検査して駆除、除外の検査)
を選択して、「完了」ボタンをクリックします。

■ オンデマンド検査スケジューラ設定画面②

オンデマンド検査スケジューラ

検査プロファイル

スマート検査

検査の対象

☒ ローカルドライブ
☐ ネットワークドライブ
☐ リムーバブルメディア
☒ ブートセクター

対象を追加するパスをここに入力

オプション

☒ 検査して駆除する
☐ 除外の検査

戻る 完了 キャンセル

3. 詳細設定について

(10)プロキシサーバ

- 検出エンジンのアップデートやESETのウイルス対策プログラムのアクティベーション(認証)をインターネット経由で行う場合、インターネットに接続する際にプロキシサーバを経由している環境では、プロキシサーバの設定を行う必要があります。

■プロキシサーバ設定画面



設定

検出エンジン

アップデート

保護

ツール

プロキシサーバ

Webインターフェイス

ログファイル

ユーザーインターフェイス

基本

プロキシサーバを使用 ☒

プロキシサーバ

ポート 3128

プロキシサーバは認証が必要 ☐

ユーザー名

パスワード

パスワードの表示

HTTPプロキシが使用できない場合は直接接続を使用する ☒

保存 破棄 既定値にリセット

プロキシサーバを使用する場合は、
【プロキシサーバを使用】にチェックします。

プロキシサーバで認証が必要な場合は、【プロキシサーバは認証が必要】
にチェックを付け、有効なユーザー名とパスワードを入力します。

3. 詳細設定について

(11)ログファイル

- ログに記録する最低レベルやログローテーションの設定、Syslogにログを出力する場合はSyslogファシリティの設定が可能です。

■ログファイル設定画面

設定 ?

検出エンジン

アップデート

保護

ツール

プロキシサーバ

Webインターフェイス

ログファイル

ユーザーインターフェイス

基本

ログに記録する最低レベル 情報レコード ▼

次の日数が経過したエントリを自動的に削除する ☒ 90

ログファイルを自動的に最適化する ☒ 25

使用されていないエントリの割合(%)が次の値よりも大きくなったら最適化

Syslogファシリティ デモン

保存 破棄 既定値にリセット

- 【重大な警告】** : 重大なエラー(ウイルス対策の起動に失敗したなど)が含まれます。
- 【エラー】** : 「ファイルのダウンロード中にエラーが発生しました」といったエラーや重大な警告が記録されます。
- 【警告】** : 重大なエラーと警告メッセージとエラーが記録されます。
- 【情報レコード】** : アップデートの成功メッセージを含むすべての情報メッセージと上記のすべてのレコードが記録されます。
- 【診断レコード】** : プログラムおよび上記のすべてのレコードを微調整するのに必要な情報が含まれます。

3. 詳細設定について

(12)ユーザーインターフェース

- ESSL V10.Xの保護状態に関する通知を、ステータス概要に表示させるかどうかの設定を行うことが可能です。

■ユーザーインターフェース要素画面

■ステータス設定画面

ステータス	
ESET LIVEGUARD	
ESET LiveGuardサーバーに接続できません	<input type="checkbox"/>
ESET LiveGuardはクラウド接続が制限されています	<input type="checkbox"/>
ESET LiveGuardは無効ですが、アクティベーションされています	<input checked="" type="checkbox"/>
ESET LiveGuardライセンスが有効期限切れです	<input type="checkbox"/>
ライセンスの問題のため、ESET LiveGuardが動作していません	<input checked="" type="checkbox"/>
WEBアクセス	
Webアクセス保護が機能していません	<input checked="" type="checkbox"/>
Webアクセス保護が無効になっています	<input checked="" type="checkbox"/>
その他	
SELinuxが有効ですが、サポートするには、「selinux-policy-devel」パッケージも必要です。インストールして、製品を再起動してください。	<input checked="" type="checkbox"/>
ウォッチドッグサービスが無効です	<input checked="" type="checkbox"/>
ウイルス対策	
ESET LiveGrid®フィードバックシステムが無効です	<input checked="" type="checkbox"/>

3. 詳細設定について

(参考)コマンドラインベースの操作

- ESSL V10.Xでは、ターミナルウィンドウからも以下の操作が可能です。各オプションの詳細については、以下のコマンド内の[OPTIONS]部分に「-h」を入力することで確認可能です。

- ・ **オンデマンド検査**

/opt/eset/efs/bin/odscan [OPTIONS]

- ・ **製品モジュールをアップデート**

/opt/eset/efs/bin/upd [OPTIONS]

- ・ **隔離された項目の管理**

/opt/eset/efs/bin/quar [OPTIONS]

- ・ **イベント画面の内容を表示**

/opt/eset/efs/bin/lolog [OPTIONS]

- ・ **設定のエクスポート**

/opt/eset/efs/sbin/cfg --export-xml=/tmp/export.xml

- ・ **設定のインポート**

/opt/eset/efs/sbin/cfg --import-xml=/tmp/export.xml

【コマンド例】

- ・ ディレクトリ「/root/exc_dir」を除外してオンデマンド検査を実行
/opt/eset/efs/bin/odscan --scan --exclude=/root/exc_dir

- ・ 任意のミラーサーバーからのアップデート
/opt/eset/efs/bin/upd --update --server=http://192.168.1.2:2221

- ・ 隔離された項目を一覧表示
/opt/eset/efs/bin/quar -l

- ・ すべてのイベントログを出力する
/opt/eset/efs/bin/lolog -e

ESSLの仕様について

4. ESSLの仕様について

(1)インストールについて

※インストールにはroot権限(スーパーユーザー)が必要です。

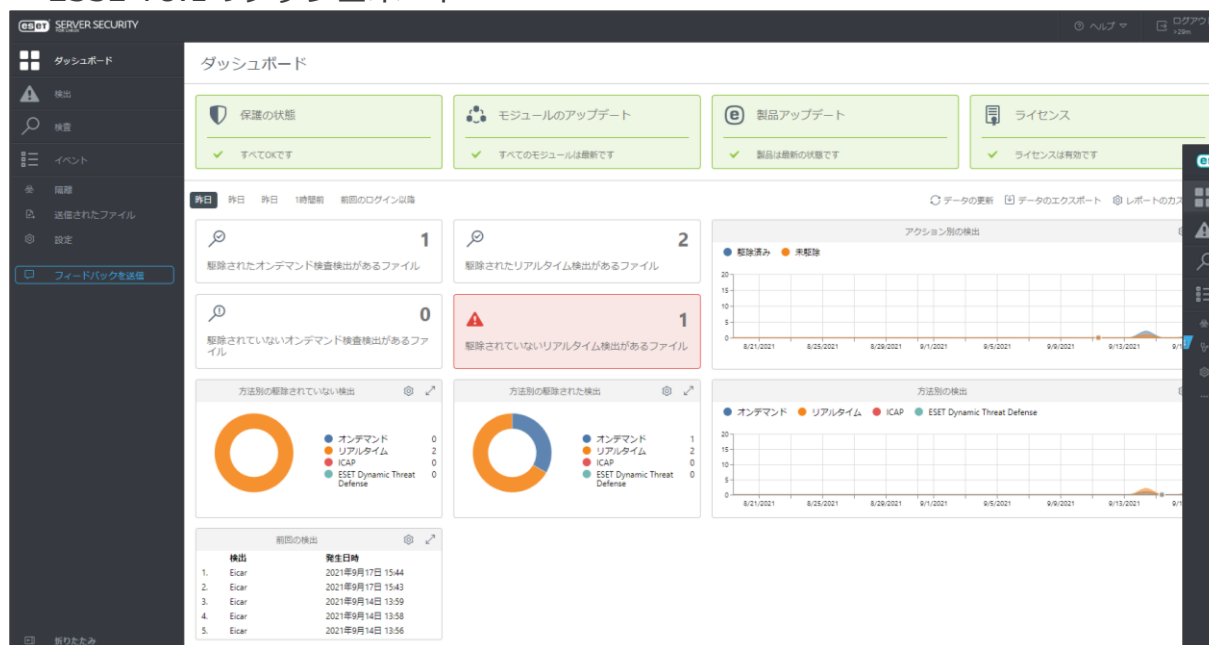
- ESSL V10.Xではインストールの際、OSのオンラインリポジトリに接続できる場合はインストール時に不足パッケージを同時に導入する仕様になっています。
- ELREPOカーネルを使用したLinuxディストリビューションはサポートされていません。
- ESSL V4.5をご利用の場合は、ESSL V4.5をアンインストール後にESSL V10.Xのインストールをお願いします。
上書きインストールによるバージョンアップはできません。
- ESSL V7.2、ESSL V8.X以降をご利用の場合は上書きインストールによるバージョンアップは可能です。
詳細は下記サポートサイトをご参照ください
 - Linux Server向けクライアント用プログラムをバージョンアップしたい
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/3234?site_domain=default

4. ESSLの仕様について

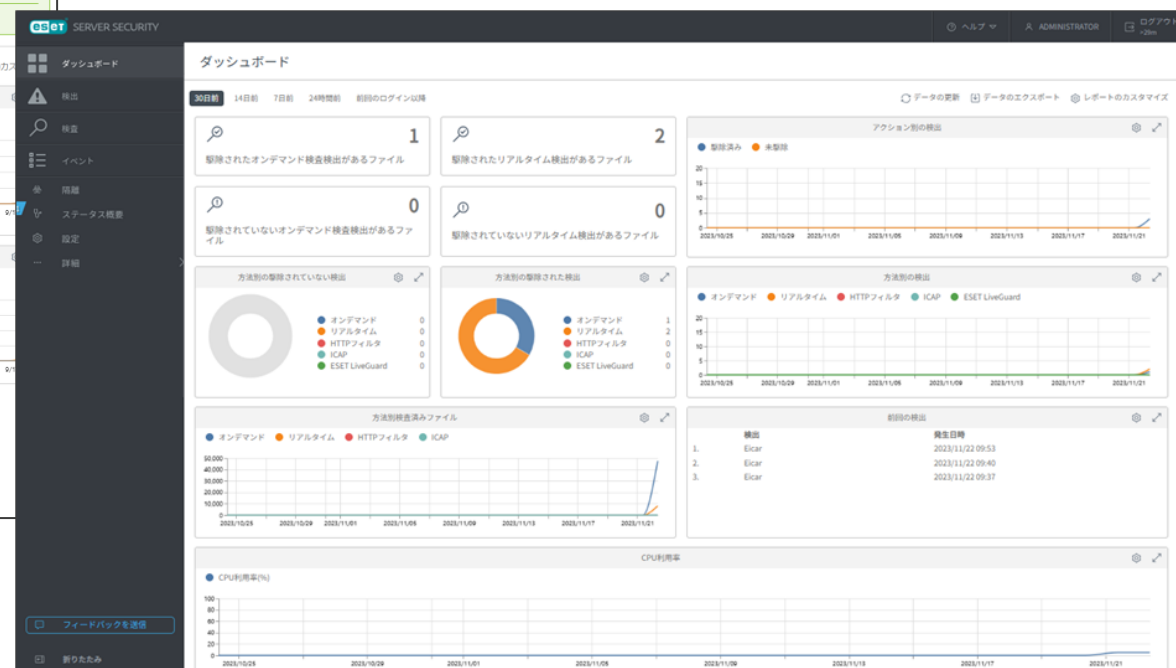
(2)ダッシュボードについて

- ESSL V10.XのダッシュボードはESSL V8.1と比較して、CPU利用率/メモリ利用率※/方法別検査済みファイルのグラフ表示ができます。

■ ESSL V8.1のダッシュボード



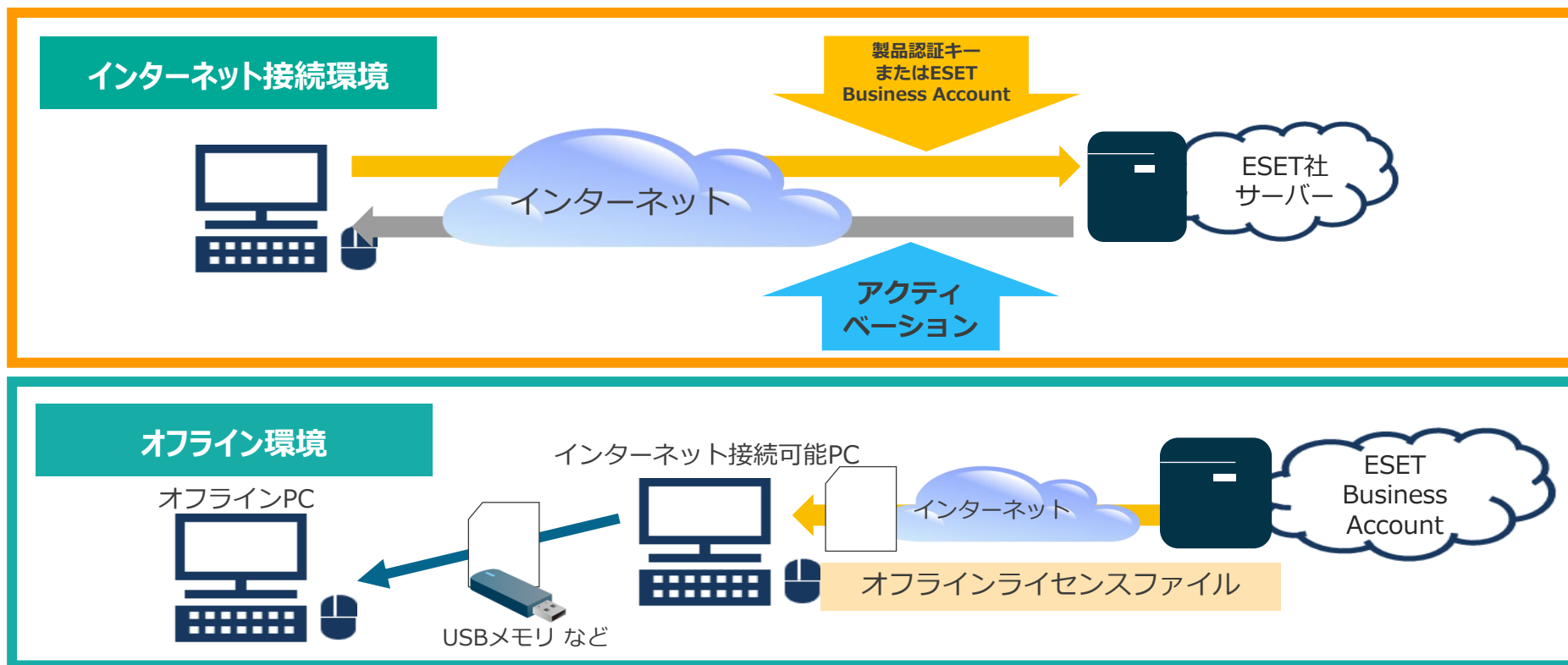
■ ESSL V10のダッシュボード



4. ESSLの仕様について

(3) アクティベーションについて①

- アクティベーションとは、製品を利用するために必要な認証作業です。ESSL V10.Xインストール後に**製品認証キー**、**ESET Business Account** または**オフラインライセンスファイル**を使用したアクティベーション(認証)作業が必要となります。



4. ESSLの仕様について

(3)アクティベーションについて②

- Webインターフェースの「ステータス概要」からアクティベーションが可能です。
「ESET PROTECTソリューション」の管理用プログラムであるEPやEP on-premのセキュリティ管理ツールでESSL V10.Xの管理を行っている場合は、セキュリティ管理ツールのタスクを使用してアクティベーションを行うことが可能です。

■アクティベーション前のアラート画面



ステータス概要

ライセンス

製品がアクティベーションされていません

製品をアクティベーションするオプション:

製品認証キーでアクティベーション
製品認証キーを使用してアクティベーションを行う (推奨)

アカウント
ESET PROTECT HUBアカウント、ESET Business AccountまたはESET MSP Administratorアカウントのライセンスを使用してアクティベーションします。 ①

オフラインライセンス
クライアントがネットワークに接続していない場合は、オフラインライセンスファイルを使用します。

ESET管理コンソール ②
ESET管理コンソールを使用して、後からこのクライアントをアクティベーションします。

「製品認証キー」、「ESET Business Account」または「オフラインライセンスファイル」を使用しアクティベーションを行います。

■アクティベーション完了後の画面



ステータス概要

ライセンス

ライセンスは有効です
ライセンスの有効期間: 2026/02/01
ライセンスID: [REDACTED]
+ライセンスを変更するオプションを表示

製品アップデート
製品は最新の状態で

古い検出エンジン

オンデマンド検査
この機能を使用するには、まず、モジュールをアップデートする必要があります。

その他の機能
リモート検査 - ICAP: 無効
ウォッチドッグ: 有効
Webアクセス保護: 有効

アクティベーションが完了すると、「ライセンスは有効です」と表示されます。

※アクティベーションを行わないと検出エンジンのアップデートができません。